



2016年9月6日

アウディ ジャパン株式会社
プレス問い合わせ 03-5475-6309
<http://www.audi-press.info/>

お客様問い合わせ 0120-598106
アウディ コミュニケーションセンター

時代をリードするオールラウンドなプレミアムクロスオーバー
新型 Audi A4 allroad quattro を発売
新開発の quattro システムを標準装備し、燃費も 9%改善

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：斎藤 徹）は、オールラウンドなドライビング性能を備えた Audi A4 Avant ベースのプレミアムクロスオーバー、Audi A4 allroad quattro（アウディ A4 オールロード クワトロ）をフルモデルチェンジし、9月6日（火）より全国の正規ディーラー（121店舗、現時点）を通じて販売開始します。

「allroad」とは、ステーションワゴンモデルの Avant（アバント）をベースに、quattro（フルタイム 4WD システム）を組み合わせ、さらに SUV 特有の優れた性能を融合したクロスオーバーモデルです。Audi A4 allroad quattro は、2010年に初代モデルが日本で発売されて以来、ミッドサイズクラスでは唯一のオールラウンドなキャラクターを備えたプレミアムクロスオーバーとして、市場で独自のポジションを築き上げてきました。今回発売する 2 世代目モデルは、そのユニークなコンセプトを継承しつつ、デザインとメカニズムを根本から刷新。さらに、インテリジェントなアシスタンスシステムや Audi connect などの新しいテクノロジーを導入することで、従来から定評のあった走行性能、安全性、快適性、ユーティリティなどに加えて、燃費効率やインフォテイメント、コネクティビティといった分野でも、ライバルを確実にリードする現代的オールラウンダーへと飛躍を遂げました。

デザイン面では、ベースとなった Audi A4 Avant に対しグラウンドクリアランスを 30mm 拡大。全高が高くなったことに加えて、力強く張り出したホイールアーチ、クローム仕上げの垂直ルーバーを配したシングルフレームグリル、ボディとは対照色のサテライトシルバーで仕上げたアンダーボディプロテクション/リヤディフューザーといった allroad 特有のデザインにより、どんな場所にあってもスタイリッシュな存在感が演出されています。

搭載する 2.0 TFSI エンジン従来型のものよりパワーを 20kW（28PS）アップして 252ps とする一方で燃費効率を約 9 パーセントも改善。これには、エンジンそのものの改良に加えて、後述する quattro ドライブシステムの進化、さらに設計段階からの徹底した軽量化戦略が効果をあげており、実際に車両重量は従来型比 90kg も削減されています。

全モデルに標準装備される quattro システムは、100%前輪駆動で走行が可能な新開発の「Ultra(ウルトラ)テクノロジー」を初めて導入することで、走行状況に応じたインテリジェントな 4WD 制御を実現。伝達効率を大幅に高めることに成功しました。トランスミッションは、デュアルクラッチを用いることで効率とスポーツ性を高度に融合させた「7速 S トロニック」を全モデルに標準採用しています。

通常の Audi A4 Avant よりも 30mm 大きい 170mm の地上最低高と標準装備の quattro ドライブシステムにより、軽度なラフロードまでであれば、本格 SUV にも負けない走破性能を発揮します。アウディドライブセレクトに新たに offroad のモードを設定したことで、オフロードでの運転がより容易になり、能力も高まりました。

安全装備に関しては、標準装備の ABS、ESC（エレクトロニック スタビリゼーション コントロール）、6つのエアバッグに加えて、先進的なアシスタンスシステムを充実させており、カメラと複数のセンサーを用いた衝突予防システム、「アウディプレセンスシティ」のほか、衝突時の乗員保護能力を高める「ア

ウディプレセンスベーシック)、ドライバーの車線維持操作をサポートする「オーディアクティブレーンアシスト」などを全モデルに標準装備。また、同じく全モデルに標準装備の「アダプティブクルーズコントロール」には、渋滞時にアクセル/ブレーキだけでなくステアリング操作にも必要な介入を行ってドライバーの負担を軽減する「トラフィックジャムアシスト」の機能が備わっており、将来の本格的な自動運転につながるテクノロジーとして注目されています。

ラゲージルーム容量は、従来型より拡大された 505~1,510ℓ を確保。広くて快適なパッセンジャーコンパートメントと併せて、ユーティリティの面でもオールラウンドな資質を備えたクルマに仕上がっています。

従来のアナログメーターパネルに代わる 12.3 インチの高性能モニターを使ったフルデジタルの多機能ディスプレイシステム、「Audi バーチャルコックピット」を A4 allroad シリーズとして初めてオプション設定しました。また、Audi connect のモジュールを標準で搭載しており、ドライバーは LTE の高速通信を介して、Audi 独自のオンラインサービスを利用することが可能です。また、付属機能である Wi-Fi ホットスポットにより、最大 8 台のモバイル端末を同時にインターネットに接続することができます。

今回発売する新型 Audi A4 allroad quattro の主要諸元と価格は以下の通りです。

	Audi A4 allroad quattro
ハンドル位置	右
全長	4,750mm
全幅	1,840mm
全高	1,490mm
ホイールベース	2,820mm
車両重量	1,680kg*1
JCO8 モード燃費	14.6km/ℓ
総排気量	1,984cc
エンジン種類	直列 4 気筒 DOHC インタークーラー付ターボチャージャー
最高出力	185kW(252PS)/5,000-6,000rpm
最大トルク	370Nm/1,600-4,500rpm
駆動方式	quattro (フルタイム 4WD)
トランスミッション	7 速 S トロニックトランスミッション
タイヤ	225/55R17
車両本体価格 (税込)	6,580,000 円

*1：パノラマサンルーフ付の場合 +30kg

■新型 Audi A4 allroad quattro の概要

クロスオーバーならではの存在感

ベースとなった Audi A4 Avant に対し、車高を上げ、ホイールサイズを若干アップすることでグラウンドクリアランスを 30mm 拡大。エクステリアでは、Audi allroad シリーズのビジュアルアイデンティティである力強く張り出したホイールアーチ（プロテクターは今回からマットブラックのほかボディ色も選択可能に）に加え、立体的な造形にクロームの垂直バーをあしらったシングルフレームグリル、ボディとは対照色であるサテライトシルバーのアンダーボディプロテクションとリヤディフューザー、専用デザインのバンパーなどにより、力強さと都会的洗練を兼ね備えた存在感のある佇まいが演出されています。ヘッドライトは、標準仕様はバイキセノンですが、オプションで、LED ヘッドライトのほか、ハイビームに高度なマスキング機能を備えたマトリクス LED も注文することができます。

よりパワフルに、効率的になった 2.0 TFSI エンジン

エンジンは 185kW (252PS) のパワーと 350Nm のトルクを発揮する 2.0 TFSI =ターボチャージャー & インタークーラー付き 2.0ℓ 直列 4 気筒 DOHC16 バルブ直噴ガソリンエンジンを搭載します。従来型の Audi A4 allroad quattro に搭載されていた 2.0 TFSI ユニットと比べて、パワーで 20kW (28PS)、最大トルクで 20Nm 向上しており、さらにデュアルインジェクション、2 系列の冷却回路、シリンダーヘッドと一体化した排気マニフォールドなどを採用することで、幅広い運転領域で燃費効率を改善しつつ、暖気時間の短縮などのメリットも生み出しています。実際、これを搭載した新型 Audi A4 allroad quattro は、7 速 S トロニックとの組み合わせで、JC08 モード 14.6km/ℓ の好燃費を実現。これは従来型と比較すると約 9 パーセントの改善にあたりますが、その一方で、0-100km/h 加速を 6.1 秒で完了する（欧州仕様の値）スプリントでもあります。燃料消費削減のために、全モデルに Start/Stop システムとブレーキエネルギー回生システムを搭載しました。トランスミッションは、デュアルクラッチ機構を採用することでトルクの断然を伴わない素早くスムーズな変速と、マニュアルギアボックスなみの高い伝達効率を両立させた 7 速 S トロニックを全モデルに搭載しています。

ultra テクノロジーにより進化した quattro システム

新型 Audi A4 allroad quattro には、アウディの生産モデルでは初の「ultra テクノロジーを用いた quattro ドライブシステム」が搭載されています。これは、メカニカルなディファレンシャルユニットを用いたアウディ伝統の quattro システムに、インテリジェントな制御機構と 2 箇所の駆動力断絶機構を付加することで、無駄な駆動抵抗を減らし、実走行での伝達効率を大幅に改善したシステムです。トラクション面での負荷が小さく、4WD 走行の必要が認められない場合には、センターディファレンシャルの多板クラッチと、リヤディファレンシャルに内蔵したデカップリングクラッチをリリースして、FWD（前輪駆動）で走行するようにします。この場合、プロペラシャフトとリヤディファレンシャルはホイールから切り離されていますから、無駄な駆動抵抗が最小化されます。もっとも、この新テクノロジーの真にユニークな特長は、そこから 4WD へ切り替えるプログラムで、数多くのセンサーから送られてくる情報をもとに、インテリジェントな能力を備えた制御システムが車両の走行状況を常に「先読み」し、4WD のトラクションが必要となる「寸前」に 2 箇所のクラッチを素早く接続して、quattro モデル本来の走行性能が発揮されるようにしています。そのため、通常の quattro モデルに対し、安定性、運動性能、走破性の面でデメリットはまったくありません。ちなみに、この「ultra テクノロジーを用いた quattro ドライブシステム」の制御プログラムは、アウディドライブセレクトのモード選択を介して、ドライバーが調整することができます。標準的な制御が行われる auto モードに対し、dynamic のモードを選ぶと、4WD への切り替えがより早期に行われるようになり、後輪へ分配されるトルクの割合も多めの設定に代わります。さらに、allroad quattro 用に新たに導入された offroad のモードを選ぶと、常時 4WD で走ようになります。

複合材料による軽量ボディ

外寸が若干大きくなっているにも関わらず、新型 Audi A4 allroad quattro は、従来型と比べて 90kg もの軽量化を実現しています。熱間成形スチールやアルミを多用した複合構造のボディで 15kg、改良を施した 5 リンク式フロントサスペンションで 5kg、新設計のエレクトロメカニカルステアリングシステムで 3.5kg、台形リンク式から 5 リンク式に設計を改めたリヤサスペンションで 7.5kg、従来型モデルに対して重量を削減しています。また、ダッシュボード下部の構造材やフロントクロスメンバーにはアルミ押し出し材を、D ピラーとルーフの接合部にはアルミダイキャスト品を採用し、リアハッチゲートもアルミ製とするなど、各所に軽量素材を活用しています。

安全性を向上させた最新のアシスタンスシステム「アウディ プレセンス」

ベースとなった Audi A4 Avant 同様、安全のためのアシスタンスシステムが充実しており、「アウディプレセンスベーシック」「アウディプレセンスシティ」「アウディアクティブレーンアシスト」「リヤビューカメラ」「アダプティブクルーズコントロール」「アウディパーキングシステム」などのシステムを全モデルに標準化しています。さらにオプションで「アウディサイドアシスト」「アウディプレセンスリヤ」

「サイドエアバッグ（リヤ）」「パークアシスト」「サラウンドビューカメラ」の各システムを装着することが可能です。そのうち「オーディプレセンスシティ」は、レーダーとカメラにより前方の交通状況を監視して、クルマや歩行者の存在を感知し、緊急時には自動ブレーキを発動するなどして事故の危険を減らすシステムです。追突が避けがたいか、走行状況が著しく不安定になった場合には「オーディプレセンスベシク」により、前席シートベルトのテンションを上げるなどして衝突の衝撃に備えます。同じく標準装備の「オーディアクティブレーンアシスト」は、ドライバーの車線維持操作をサポートするシステムで、ウインカーを使用しない状況でクルマが車線を逸脱しそうになると、警告を発すると同時に、ステアリングに介入してクルマを元の車線に戻します。また、同じく全モデルに標準搭載される「アダプティブクルーズコントロール」には、時速 65km/h 以下の渋滞時に、アクセル、ブレーキだけでなくステアリング操作にも介入してドライバーの負担を軽減する「トラフィックジャムアシスト」の機能が新たに導入。将来の本格的な自動運転につながるテクノロジーとして注目されています。なおエアバッグは、前席前面、前席サイド、及び前後席をカバーするカーテンエアバッグの合計 6 つを全モデルに搭載しています。

最新世代の MMI と Audi バーチャルコックピット

アウディを代表する先進テクノロジーのひとつである MMI は、今回操作手順が全面的に刷新されています。メニューに固定したヒエラルキーを設定しない操作方式は、スマートフォンのそれにならったものです。その MMI と連動するシステムとして、12.3 インチの高輝度液晶モニターを用いたフルデジタルの多機能ディスプレイシステムである「Audi バーチャルコックピット」を、A4 allroad シリーズとして初めてオプション設定しました。

最新のインフォテイメントシステムと最高のコネクティビティ

新型 Audi A4 allroad quattro には、ナビゲーション機能と 8.3 インチモニターを備えた最新鋭のインフォテイメントシステムが標準で搭載されています。操作は、MMI コントロールユニットにより一元的に行う仕組みで、今回新たに導入された Audi スマートフォンインターフェイスにより、各社スマートフォンとの接続、特定のアプリの共有が可能となりました。さらに Audi connect により、ドライバーはアウディブランド独自のオンラインサービスを利用することが可能で、またほかの乗員も、Audi connect の付属機能である Wi-Fi ホットスポットを介して、最大 8 台までのモバイル端末を同時にインターネットに接続し、ネットサーフィンや e メールを送受信などを楽しむことができます。

広くて使い易いラゲージルーム

荷室容量は 5 人乗りの状態で 505ℓ 確保しており、後席のバックレストを畳めば最大 1,510ℓ まで増やすことが可能です（従来型と比べるとそれぞれ 15ℓ、80ℓ 拡大）。後席バックレストは便利な 3 分割タイプで、きれいな立方形をしたラゲージルームは荷物を積み込みやすく、使い勝手に優れています。全モデルに電動ラゲージルームカバーのほか、パーティションネット、ルーフレールが標準装備されています。

参考：アウディの allroad quattro シリーズについて

今日プレミアムクロスオーバーの代表的な 1 台と見做されている Audi allroad がワールドデビューを飾ったのは、いまから 17 年前の 1999 年です。Audi A6 Avant をベースにしたそのオリジナルモデル、Audi allroad quattro は、SUV とステーションワゴンの間に位置づけられるアウディならではのユニークなコンセプトを具現化したスタイリッシュなモデルとして市場に強烈なインパクトを与えました。Audi allroad quattro は、2006 年に 2 世代目へと進化したとき、名前を Audi A6 allroad quattro に改め、2012 年には 3 世代目 Audi A6 allroad quattro が発売されています。一方、Audi A4 allroad quattro は、2009 年に当時の Audi A4 Avant をベースとしてデビューを飾っており、今回発売のモデルは 2 世代目となります。

日本市場における Audi A4 allroad quattro シリーズの歴史をさかのぼると、ヨーロッパ市場に導入された翌年の 2010 年 11 月に 250 台限定で発売されたのが最初で、翌 2011 年の夏には 300 台の限定で、2012 年と 2013 年にもそれぞれ 200 台、250 台の限定で販売されました。市場での好評を受けて、2014 年 8 月以降は、Audi A6 allroad quattro とともに、正式なカタログモデルとして継続販売されており、これまでに累計 5,000 台以上が日本国内で登録されています。